

# レポート

西宮市立西宮東高校 野口 果夏

まず初めに、今回のプログラムでお世話になったすべての方々に、感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当に、ありがとうございました。

中学生の頃から、ずっと外国に行きたいと思い続けてきて、ようやくそれが叶うと決まっからは、毎日ドキドキしていました。日本しか知らずにいることが嫌で、とにかく、どこか外国に行かなければ、私の進路も将来も、何も決まらない気がしていた私ですが、やはり、留学という経験は、私にとって想像以上に大きなものとなりました。六月に Paige が我が家にやって来てから、私が彼女の家に行き、そして戻ってくるまで、もう半年近くたったと思うと、驚きでいっぱいです。こんなに、中身の詰まった一年間を過ごせて、私は本当に幸せ者だな、と思います。

## ホームステイ受け入れ期間

Paige の滞在中は、家族みんなが、初めての状況に戸惑いながらも、楽しい思い出がたくさん作れました。一部屋用意してあげられなかったり、夕食の時間がばらばらだったり、部活の時間まで待ってもらったり、申し訳ない部分もたくさんあったのですが、その度に、周りの人たちに快く助けて頂きました。特に、クラスメートたちが、積極的に話し掛けてくれたことは私にとってもとてもありがたいことで、Paige と友達と一緒に、京都に行ったり、お泊まり会をしたり、私が思っていた以上に、コミュニケーションを取る事ができて、早く親しくなることができました。また、南くん、鈴木くんの家族との交流もたくさんあって、Paige だけではなく、Mike や Tiernan と仲良くなる事が出来たことは、本当に良かったと思います。

もちろん、楽しいだけではありませんでした。やはり言葉の壁があって、うまく思いが伝わらなかったり、説明したいことが違うように伝わっていたりすることもありました。部活や習い事の時間の調整、家での勉強なども、今まで通りというわけにはいきません。ですが、それ以上に、異文化間の新しい発見や、驚きや、楽しいことがいっぱい、大変なことすら楽しめる

毎日でした。今思うと、もっとこうしてあげたら良かったな、こんなことに困っていたかもしれないな、と後悔する部分もありますが、こうして出会えて、本当に良かったです。

## アメリカ滞在期間

Paigeが帰国して、今度は私がスポーケンに行ってから、また想像していたのとは全然違う毎日が待っていました。実は、彼女が日本に来た時、思っていたよりも英語が通じるな、と内心思っていた部分がありました。乏しい英語の知識ですが、それを駆使してなんとか意思疎通できるな、と。そんなこともあって、不安は殆ど無いままに出発したのですが、本場の英語は違いました。

まず、聞き取れない。簡単なことしか話していないのに、全く知らない単語のように聞こえることが何度もあり、前半の一、二週間は、どうやってコミュニケーションを取ればいいのか、試行錯誤していました。また、大勢の会話になると、会話の内容を追うことも難しくなってきた、昼食の時間などは本当に大変でした。一対一の会話なら、なんとかなるだろうと思い、お菓子を配って、私の方に一人ずつ向いてもらおうと試みたり、今まで悩んだことも無かったような部分で、工夫しなければいけませんでした。

また、色々な人種の生徒が通っているため、私が日本からの留学生であることを、自分から伝えなければ気付いてもらえないことも、向こうに行ってから、初めて知ったことでした。うっかり説明しそびれると、英語がペラペラだと思われて、大変なことになるのです。だから初めて会う人には、いつも、日本からの留学生です、と言って歩いていました。アメリカに行くまでは、日本人だからと物珍しげに見られたりするのには、嫌な気分になるかもしれないな、などと思っていたのですが、行ってみれば、それは全く逆だったと分かりました。むしろ、興味を持って近づいて話し掛けて来てくれる人の存在がありがたくて、私自身も、会話がしやすかったです。そういう面では、Paigeが日本に来ていた時、私が心配していたことは、少し視点がずれていたことに、自分が留学生になって、初めて気づきました。

学校生活の中での一番の思い出は、やはり、日本語クラスです。私は、日本語教師という職業に興味があり、実際に日本人の先生が日本語を教えておられる授業に参加できることを、と

でも楽しみにしていました。そのことを先生に伝えると、本当にありがたいことに、私にも前に出て授業をする機会を何度かくださったのです。プロジェクターを使って、教室の前で平仮名や、カタカナ、漢字の書き順などを教えました。普段は、考えなくてもできることほど、教えるとなると、難しいものだということを強く感じました。

また、ただ生真面目に教えることは簡単ですが、覚えやすいようなちょっとした小話や、楽しい授業を作ることが、こんなにも大変なことだと初めて実感しました。いつもは、生徒の立場ばかりの私が、初めて先生の立場に立って、授業が全く今までとは違って見えました。日本語の授業中は、作文やテストの添削などもしましたが、みんなとても熱心で、日本に興味を持っている生徒たちばかりなので、会話も弾み、とても楽しかったです。このクラスで出会った何人かとは、今もメッセージのやり取りが続いていて、本当に素敵な出会いだったと感じています。

そのほかにも、ホームカミングパーティーや、ハロウィーンなど、アメリカならではのイベントにも参加することができ、アメリカらしさを肌で感じる機会が、たくさんありました。特に、ハロウィーンは、日本の「若者たちのお祭り」感覚ではなくて、昔から続く、伝統的な文化なんだと感じて、今まで体験したことない、本当に楽しい十月三十一日を過ごすことができました。ハロウィーン前の、町の様子は本当に面白くて、可愛らしくて、遊び心がいっぱいでした。Paigeの家には、親戚が集まり、たくさん日本について話す機会を、もつこともできました。

ホームステイでの六週間も、素晴らしい体験でした。Paigeの家族には、とてもお世話になって、本当に感謝しています。農場を営んでいるという、特殊な家庭だったこともあってファームツアーなどもさせていただき、貴重な経験をたくさんしました。家族と離れ、他の家庭でこんなにも長く過ごすことは、恐らくこの先にはないと思います。生活の仕方や、食事など違いも全て受け入れながら、柔軟に過ごすことが大切だと感じました。朝夕の温度差がとても激しく、夜明けもとても遅くて、何度もきれいな朝焼けを見ることが出来ました。家の周りには、視界を遮るものが何もなく、遠くの方まで見渡すことができます。毎日あの広々とした自然の中を、車で登校していたことを思い出すと、少し寂しくなります。アメリカの景色は、まだはっきりと覚えていて、本当に何もかもが大きくてゆったりとしていて、大らかでした。鹿が、しげみから出てくるのを見て驚く私に、Paigeが「奈良公園の鹿の方が、驚きだ」と話していたのが、可笑しかったです。

ご両親はとても明るい方で、そんな家庭の雰囲気のおかげもあって、ホームシックになることもなく、とても楽しい毎日を過ごせました。最後、空港でお別れをするときは、自然と涙がこぼれてきました。家は、一番長く過ごし、たくさんお世話になった場所です。「またおいで」と、言っていた時に、絶対にもう一度帰ろう、と心に決めました。

Paige が来て、私がアメリカに行って。今回のプログラムを通して一番感じたことは、人との出会いです。一緒に行ったメンバー、日本に来てくれたメンバー、お世話になった姉妹都市協会のみなさんや、このプログラムに関わってくださっている方々など、誰もが本当に素敵で、こんなに素晴らしい出会いができただけでも、価値のある経験だったと思っています。アメリカに行く方法は、正直に言えば、いくらでもあると思います。しかし、もし私がこのプログラムに参加していなければ、出会えていなかった人たちがたくさんいると思うと、今年このプログラムで本当に良かった、と心から思います。

アメリカでも、たくさんの良い出会いがありました。中でも、学校に通えたことは、私にとって、大きかったと感じています。学校生活で出会った友達は、本当にみんな優しく、明るくて、楽しくて、この先もずっと続くような関係でいたい、と強く思える子たちばかりでした。前半の三週間ほどは、私は日本の友達が恋しくて、居場所を日本に探していた気がしますが、帰る頃には、気が付けばスポーケンにも私の居場所が出来ていて、帰りたい気持ちと、残りたい気持ちとの間で、とても複雑な寂しさを感じました。最終日には、メッセージボードを作ってくれたり、サプライズでパーティーを開いてくれたり、私は学校でずっと泣いていました。ありがたくて、嬉しくて、寂しくて、出会いは本当に大切なんだ、と改めて感じました。

この先、私はまた、たくさんの人に出会って行くと思います。一人一人との出会いを大切に、アメリカで学んだ、「伝える大切さ」を活かしていきたいです。言葉も違う中で、あの短い期間で心が通ったのは、アメリカの持つ、心を伝える積極性にあると思います。日本人の思慮深さも、アメリカ人の飾らない素直な感情表現も、いいところを吸収して、たくさんの人との関係を築いていきたいです。

こんな貴重な経験をさせていただいたことに、本当に感謝しています。ありがとうございました。

